

## 【銅賞】

### 『お米の力』

西都市立三財中学校 3年 竹下 大翔

僕のこの体は、家族で作ったお米のおかげで大きくなった。僕の家族は農家をしており、おもな作物として、メロンや大根を作っている。その中でも、今まで一度もあきらめずに、ずっと作り続けているものがお米である。お米が育つまでに、たくさん家族の苦勞をそばで見てきたから、お米の大切さは人一倍知っているつもりである。

まず、田植えをするまでの準備がとても重要で、土壌を整えることは、素人の人が簡単にできることではない。その役割をもつ父は、長年の知識と経験で、とても簡単なことのように進めていく。その姿を見て、恥ずかしくて口にして言えないが、小さい頃からかっこいいと思っていた。田植え時期には、祖母も含めて僕たち全員で、役割を分担しながら手伝う。田植え機に乗っていく苗や肥料を積み込み、空いた苗箱を洗っていく。田植え機で植えられない部分に手で植えるなど役割はたくさんある。普段から、毎日農業をしているわけではない僕は、その作業がたまに重労働に感じてめげそうになる。しかし、僕たちの血となり肉となってくれお米なのだから、その時ばかりは、とてもやる気が出る。長い年月を経て、自分の手で植えた稲が育った後の稲かりをする時は、いつも大きな達成感を覚える。そうして育ったお米は、僕の中ではどのこお米より一番美味しい。そのお米が一番美味しいと感じる瞬間は、部活動の野球が終わって家に帰った後、母が用意してくれているご飯を食べる時である。僕は、帰る前から炊きたてのお米が待っていると思うとワクワクする。帰っていざ食べてみると、疲れた体が一気に元気になるのではないかと思うくらい美味しい。家族で育てたお米なのだから、より一層感じられるだろう。食べながら、色々なことを考えたり話したりしていくうちに、僕は、「お米は、もちろん体を大きくする役割もあるけれど、心も成長させてくれる。」と思った。どんなに部活動で苦しい練習をした後でも、嫌なことがあった時でも、お米を食べることでポジティブになれる。以前、試合でエラーをしてしまい、僕のミスで負けてしまった時、食欲も気力も出ない時があった。そんなときに、「とりあえず、これを食べなさい。」と母がおにぎりをつくってくれた。食べながら、いろいろなことを思い出し、涙で味が分からないほど泣いた。しかし、食べているうちに強い勇気がわいてきてもつと、がんばろうという気になれた。それが、お米の力だと思う。家族で育てたお米なのだから、みんなのパワーもつまっているのだ。だからこそ、大切に愛情込めて育てられたお米の米粒一つも残さず食べるというのが僕の中のルールである。

そんなたくさんの思いが詰まったお米が毎日食べれる僕は、とても幸せなんだと毎日考える。

これからも、たくさん困難なことがあると思うが、そういう時はたくさんお米を食べ、またリセットして頑張っていこうと思う。僕は、この家に生まれて、お米を作る環境で育つことができてよかった。